

株主行動と企業統治 最近の動向をどうみるか

中京大学 千田 純一

金融の機能不全の長期化と証券化への期待、商法改正、エンロン事件などを背景にして企業統治をめぐる議論が大きな高まりをみせている。この動向は、投信、年金、保険などを通じて投資家としての性格を強めつつある一般国民にとっても重要である。

本報告では、わが国の企業統治をどのように変えるのか、そのためにはどのような取組みが求められているのか、といった問題を、ゾルレンとザイン、建前と本音といった観点を加味しつつ、できるだけ具体的に考えてみたい。

なお、企業統治というと、企業の目的はなにかということが問題にされるが、それは一義的な答えのない問題であり、各企業の理念、経営方針に任せれば良いことであろう。ここでは、企業統治の目的は、企業の公開性・透明性を高めることによって、各ステークホルダーの意思が企業経営に反映されるような仕組みを創ることであると考える、以下の点を考察したい。

- ( 1 ) 経営者主権の中での経営者意識の変化
- ( 2 ) 株主行動 とくに個人株主、機関投資家
- ( 3 ) 社外取締役、委員会等設置会社制度の導入
- ( 4 ) 投資家サービス会社、格付機関、規制当局、マスメディアの役割

